

社会福祉法人「希望の家」令和7年度第1回運営協議会議事録

1. 日 時 令和7年7月14日(月) 午後1時30分～4時00分
2. 場 所 兵庫県宝塚市玉瀬字田畠10番地
希望の家グリーンホーム ふれあいホール
3. 出席者 運営協議会委員総数 5名
運営協議会委員出席者 5名
運営協議会委員 辰巳 佳成・柳 恭子・北尾 敏浩
辻井 陽子・庄 宏哉
施設利用者 F氏(希望の家グリーンホーム利用者)
T氏(希望の家サンホーム利用者)
理 事 長 蓬莱 元次
常務理事 福島 真司
法人職員 江頭 眞弓、井原 義博、霜 亨、筒井 健太
4. 議題
(1) 運営協議会及び地域連携推進会議等について
(2) 令和6年度社会福祉施設及び事業所事業報告
5. 施設内見学
6. 利用者との意見交換
7. 議 長 理事長 蓬莱 元次
8. 議事録作成者 筒井 健太
9. 議事の経過の要領及びその結果

蓬莱理事長のあいさつの後、理事長が議長となり議事に入った。委員紹介に先立ち、福島常務理事から、島廣弘二委員の退任に伴い新たに庄宏哉兵庫県社会福祉事業団常務理事が就任されたと説明がなされるとともに、議事録署名人に辰巳委員および柳委員が指名された。

4. 議題

続いて理事長より、議題（1）運営協議会及び地域連携推進会議等について、令和 6 年度障害福祉サービス等報酬改定により障害者支援施設において地域との連携等に資するため地域連携推進会議の開催及び地域連携推進会議の構成員が当該事業所を見学する機会を設けることが令和 7 年度より義務化されたことについて説明がなされた。希望の家においては運営協議会が地域連携推進会議の構成員に該当する委員で構成されているため、運営協議会が地域連携推進会議を兼ねること、次回以降の開催場所はサンホーム、ワークセンターを含む 3 障害者施設を輪番し開催するとの提案があり全委員が了承された。

議題（2）令和 6 年度社会福祉施設及び事業所事業報告について、理事長から別紙資料に基づいて説明が行われた。2 件の議題について、質問、意見がないか求めたところ、庄委員から相談支援業務の中で「断らない相談」、「待たせない相談」を実践し全ての相談に応じていると説明があったが、これらを実現するにはかなりの力量が必要であり困難があったと考えられるがどのようにして実現しているのかと質問があった。蓬莱理事長から、重い腰を上げて相談に来られた方を待たせるという考え方はなく、まずは耳を傾けて話をじっくりと聞くことから始め、相談者の身になって一緒に考えることを実践している。相談支援事業所江頭所長からは、毎週開催しているケース検討会において複雑で解決が困難なケースを全相談員で共有し対策やアドバイスを皆で出し合っているため相談員が一人で抱え込むことがないことや、全員が社会福祉士などの資格を取得しており相応のスキルを持っていることなどから実現できていると思われると説明がなされた。また、辻井委員から、障害児通所支援事業所きぼうっこでは、若い職員も母親の意見に耳を傾け、母親が何を必要としているかを把握し受け入れることができている。そうした取組みにより母親が精神的に穏やかになると、子どもたちが落ち着きを見せるようになるという好循環が見られる。母親が生きづらい時こそ職員は向き合っており、そのように誰かきちんと話を聞いてくれる人がいたら人は変わってくるというのを間近で感じている、と意見が述べられた。

5. 施設内見学

施設内見学を実施。グリーンホームの見学では、3 階の創作室で実施されている現存機能維持のためのリハビリについて理学療法士 N より説明がなされた。居住棟の見学では、もみじ通りデイルームで利用者支援をしていた 1 年目の新人職員 K を交え、利用者との関係づくりや介護リフトの操作手順、困った時の対処法などについて意見交換がなされた。K から入職してまだ半年も経過していないため不慣れではあるが、利用者との関わり方や介護リフトの操作手順など先輩職員の指導により少しずつ理解を深めることができていることや、困った時にはインカムを通じてすぐに相談が出来ること、各棟のタイムスケジュールが記載されたマニュアルを持っているので自分一人でも常に最適な動き方を随時確認しながら安心して利用者支援ができていると説明がなされた。

サンホームの見学では、築 38 年が経過した 4 人部屋の居住棟などを見学。庄委員から老朽

化した建物や利用者の居室の今後については、改築や増築など様々な角度での検討が必要なのではないかと意見が述べられた。

6. 利用者との意見交換

施設内見学後ふれあいホールに戻り、グリーンホーム利用者のF氏（62歳、女性、脳性麻痺）とサンホーム利用者のT氏（23歳、男性、脳性麻痺）が出席し委員と意見交換を実施。

「職員はきちんと接していますか、言葉遣いはいかがですか」の質問に、F氏から自分の話す言葉が職員に理解されないことがあるので、職員ともう少し話す機会を増やして理解してもらえるようになりたいと回答があった。「暮らしやすい施設生活であるか、居室の工夫など生活環境は整っているか」の質問に、F氏は自由に生活できている、T氏は職員が過ごしやすい環境に整えてくれていると答えられた。「地域の方々と交流はできているか」の質問に、F氏は運動会や盆踊り大会、ひな祭り交流会などを通じて交流できている、T氏は盆踊り大会や運動会など全ての行事をいつも楽しみにしていると答えられた。「自身の財産について安心して生活できるよう支援されているか」の質問に、両氏とも事務所で預かって貰っており安心と回答。最後に「本日の意見交換の場をどのように感じたか」の質問に、F氏は委員の方々の顔が見れ、また話しをする機会になったことが良かった、T氏からは交流できてありがたかったと回答がなされ意見交換は終了した。

以上、議長は議題及び意見交換など本日の運営協議会で予定されていたすべてが終了した旨を告げ、午後4時00分に閉会した。

上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、議事録を作成し次のとおり署名する。

令和7年7月24日

社会福祉法人 希望の家

議事録署名人

理 事 長 : 蓬 菜 元 次 印

運営協議会委員 : 辰 巳 佳 成 印

運営協議会委員 : 柳 恭 子 印

議事録作成者 : 筒 井 健 太 印